

研究
主題自分の町のよさを発信できる子供の育成
ー地域の農業との関わりを深める探究的な学習を通してー

第3学年総合的な学習の時間学習指導案

指導月日 令和5年10月11日(水)

所属校名 登米市立東郷小学校

氏名 千葉 優樹

1 小単元名「登米市の米と野菜を知ろう」

2 単元目標と小単元目標

- 地域の農業に関わる人々との交流や栽培活動を通して、栽培の仕方、農業に携わる人々の思いや願いを理解し、自らの生活や地域の人々の生活を支えていることについて考えるとともに、生産者に対する感謝の気持ちと地域農業への愛着を持ち、農業についての魅力を伝えることができるようにする。
- ・ 米、野菜の栽培や農家へのインタビュー活動などの探究的な活動を通して、米作りや野菜作りに携わる人々の苦労や喜び、願いなどを感じ取るとともに、地域そのものを理解できるようにする。

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説の趣旨を受けて新たに定めた本校の総合的な学習の時間の目標「探究的な見方・考え方を働かせ、地域の自然や文化、人に繰り返し関わる総合的な学習を通して、疑問を持ったり、課題を見付けたりしながら、より良く課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す」を受けて設定した。具体的な目標は(1) 地域の自然や文化、人に関わる探究的な学習のプロセスにおいて、より良く課題を解決するための知識及び技能を身に付けるとともに、自分が支えられていることや、地域のよさに気づき、それらが人々の努力や工夫によって支えられていることを理解する。(2) 地域の自然や文化、人に関わる中で問いを見出し、その解決に向けて仮説を立て様々な方法で情報を集め、情報を取捨選択し、伝える相手を意識してまとめ・表現する力を身に付ける。(3) 地域の自然や文化、人に関わる探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。であり、これらの目標の達成につながる単元であると考え。

本単元は、全体計画に定めた探究課題「地域の農業（米・野菜）」を踏まえて構想した単元である。単元1「ふれてみよう感じてみよう南方の米と野菜」では、道の駅見学やバケツ稲づくりなどの体験を通して「地域の農業」について学び、地域の主産業である米作りについての興味・関心を高める単元である。単元2「登米市の米と野菜を知ろう」では、米作りだけにとどまらず、野菜の栽培や農家へのインタビュー活動などの探究的な活動を通して、米作りや野菜作りに携わる人々の苦労や喜び、願いなどを感じ取ることができると考える。また、学習活動を進めて行くことで、地域そのものを理解することにもつながる。単元3「登米市の米や野菜のよさを伝えよう」では、地域で育てている野菜のよさに気づき、その良さを広げていくために、どういった手段や方法がよいのかを考える。学んだことを表現する場を工夫することによって、お世話になった地域の人に感謝し、米や野菜を大切にしていこうとする思いを高め、たくさんの人が米作りや野菜作りに関わっている地域への愛着を深められる単元である。

4 児童の実態〔男子7名、女子11名、計18名〕

小単元1では、道の駅見学やバケツ稲づくりなどの体験活動を通して、地域の農業に関して、興味・関心が高まっている。興味・関心や地域農業への理解が深まったことで、地域の米を誇らしいと

感じる思いも高まってきている。また、社会科で登米市の特色ある地形や、土地利用の様子について学習をしたことによって、児童にとっての身近な地域が学区内から登米市内へと拡大し、登米市の農業への理解が少しずつ深まってきている。

5月の意識調査と9月の意識調査の比較から、グループで自分の願いや思いを伝えることに関して向上が見られた。ペアやグループで課題解決の方法を相談させ、新たに気付いたことや知ったことを共有することを繰り返してきたことが要因として考えられる。総合的な学習の時間に対しての項目では、9月の調査でも多くの児童が総合的な学習を行うことを楽しみと捉えている。バケツ稲を栽培する農業体験など、そこから生まれた気付きを、児童同士の学びにつなげたことで、一人一人の興味・関心がさらに広がり、新たな思いや願い、意欲へとつながっていると考えられる。しかし、その一方で、地域の自慢として米を挙げる児童が多く増えていない。地域の米や野菜に関しておいしいという印象を持ちながらも、農産物に対して地域の自慢として挙げる児童はほとんどいない現状である。

表1 総合的な学習の時間における意識調査（9月22日実施 17名）※転出児童1名

		とても 思う	まあまあ 思う	あまり 思わない	思わない
1	東郷地区・南方町の自慢を教えてください。（複数回答） ・地域の人が優しく、親切である。（9人）・自然が豊かである。（2人） ・お米や野菜がおいしい（2人）・登米市のお米が宮城県で1番とれている（1人） ・お米がおいしい（2人）他				
2	東郷地区・南方町のお米はおいしいですか。	16人	1人	0人	0人
3	東郷地区・南方町の野菜はおいしいですか。	12人	5人	0人	0人
4	グループの中で、自分の思いや考えを友達に伝えることができますか。	11人	5人	0人	1人
5	クラスの中で、自分の思いや考えを友達に伝えることができますか。	10人	4人	2人	1人
6	「総合的な学習の時間」は楽しみですか。	10人	7人	0人	0人

5 指導観

登米市は水田が広がり、古くから農業が盛んであり、多くの人や団体の活動によって支えられ引き継がれている。登米市が県内有数の米の産地であると同様に、野菜もまた、キャベツ・きゅうりが国の指定産地の指定を受けているほか、にら、なす、にんにく、リンゴなども県内有数の産地として知られている。しかし、多くの児童は路地畑やハウス畑があることを当たり前のことと捉えており、詳しく調べようとしたり、背景にあるものについて考えたりした経験が少ない。そこで、本単元では米作りと並行して、野菜作りを行い、作り手の苦労や工夫について気付かせたい。また、地元農家への聞き取りやJA職員のお話を通して、背景にある思いや願いに触れたりすることで、登米市に受け継がれてきた農作物の良さに気付かせたい。そうすることで児童が地域の農業を主体的に知り、探究していこうとする態度を養い、自分の町の良さを発信できる子供の育成につながると考える。また、実態調査の結果からも、登米市の米と野菜について、体験活動を充実させながら、地域の農業に関して興味・関心を高めていくだけではなく、児童が農業を地域の誇りと思えるような学習を行っていく必要があると考える。

6 研究主題との関連

「発見！探検！うまし南方地区の米と野菜」の単元を通して、以下の視点を生かして指導していく。

視点1	地域の農業に関わろうとする思いや願いを持たせる支援の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に関わる農業体験活動を充実させることで、実体験から自分の思いや願いを持たせる。 ・道の駅見学時の写真を提示し、駅長の話などから知った特産野菜についてウェブマッピングで振り返ることで、地域の農業についての更なる知識習得と意欲的な探究活動ができるようにする。

- ・野菜栽培を行う際に、地域の人や専門家から助言を受ける場面を設定することで、協働して取り組むことの大切さや地域社会に参画する喜びを実感できるようにする。

視点2 学習過程を探究的な活動にするための工夫

- ・特産野菜についての収穫量（県、全国でのランキング）を提示することで、「なぜ、こんなにも多く収穫できるのか」を児童に問い、考えさせることで、地域の野菜の良さについてもっと調べたいという思いが膨らむようにする。
- ・特産野菜についての良さを知る目的を明確にし、個人インタビューで農家への訪問取材を行うことで、情報の収集を意識的に行えるようにする。
- ・児童自身が収集した情報をベン図を用いて、各農家の特産野菜についての共通点や相違点が明らかになるようにする。
- ・特産野菜について学んだことを相手意識や目的意識を明確にしてまとめ、ポスターセッションで表現できるようにする。

7 単元の指導と評価の計画（25時間扱い、本時3/25）

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①登米市では地形や環境を生かして米作りや野菜作りが工夫され、大切にされてきたことに気付いている。</p> <p>②登米市の農業について相手や場面に応じた方法でインタビュー調査を実施している。</p> <p>③登米市には受け継がれてきた農作物があり、それを大切に守ったり発展させたりしていくことが大切であることに気付いている。</p>	<p>①登米市の農業について、道の駅の見学や特産野菜の収穫量ランキングの結果から、今後の学習課題を設定している。</p> <p>②農家へのインタビューから効率性や生産性だけを大切にしているわけではないことに気付き、食を大切にしてきた人々の思いを考えている。</p> <p>③米作りや野菜作りの工夫を知るために必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④米や野菜の栽培を通して学んだことや、インタビューや聞き取りを通して学んだことを、適切な方法で表現している。</p>	<p>①登米市の農業について学ぶために、友達と協働して課題に取り組もうとしている。</p> <p>②課題解決の状況を振り返り、米や野菜の良さを伝える活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>③探究的な学習を通して分かったことを、相手に応じた方法で進んで伝えようとしている。</p>

(2) 小単元の指導と評価の計画

小単元名	探	ねらい・学習活動	知	思	主	評価方法
<p>登米市の米と野菜を知ろう (25)</p> <p>※主として野菜を扱う</p>	課	○観光施設の見学や収穫量のデータから登米市の米作りや野菜作りへの関心を高める。(3) 1・2/3 道の駅の見学 3/3【本時】学習課題設定		①	①	・発言内容 ・行動観察 ・ワークシート
	課	○バケツ稲の稲の生育状況や、畑での生育状況を調査し、記録する。(4) ・キャベツ、ニンジンなどの種まき	①		①	・行動観察 ・ワークシート
	情	○農家の方へのインタビューから野菜作りの工夫を知る。(6) ・きゅうり農家 ・キャベツ農家 ・にら農家 ・なす農家	②	②		・発言内容 ・ワークシート
	整	○米作りや野菜作りの工夫を知るために、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較したり関係付けたりする。(4)		③	②	・発言内容 ・ワークシート

	発	○米や野菜の収穫を行い、生育についてまとめ、米作りや野菜作りを通して学んだことを校内発表会で伝える。(8)	③	④	③	・発言内容 ・ワークシート
--	---	---	---	---	---	------------------

8 本時の計画（本時 3 / 25）

(1) 本時のねらい

登米市の農業について、道の駅の見学や特産野菜の収穫量ランキングの結果から、今後の学習課題を設定する。

(2) 指導の着眼

児童の実態から登米市の野菜についての知識が少ないので、道の駅見学を通して、登米市の野菜についての興味・関心を高める。道の駅見学は2か所の施設を見学し、陳列してある野菜や駅長の話から、共通する地域の特産野菜を知り、児童のもっと知りたいという意欲を引き出す。

本時は、地域の野菜に関して、道の駅見学やインターネットで得た知識を表したウェブマッピングを使用し道の駅見学を振り返ることで、地域の農業についての更なる知識習得と意欲的な探究活動ができるようにする。また、特産野菜についての収穫量（県、全国でのランキング）を提示することで、「なぜ、こんなにも多く収穫できるのか」を児童に問い、考えさせることで、地域の野菜の良さについてもっと調べたいという思いが膨らむよう支援を行っていく。

(3) 本時の手立て

【視点1】地域の農業に関わろうとする思いや願いを持たせる支援の工夫

- ・道の駅見学時の写真を提示し、駅長の話などから知った特産野菜についてウェブマッピングで振り返ることで、地域の農業について更に興味や関心を高め、探究的な活動ができるようにする。

【視点2】学習過程を探究的な活動にするための工夫

- ・特産野菜についての収穫量（県、全国でのランキング）提示することで、「なぜ、こんなにも多く収穫できるのか」を児童に問い、考えさせることで、地域の野菜の良さについてもっと調べたい思いが膨らむようにする。

(4) 準備物

①教師：前時までの活動写真、模造紙、ワークシート、ペン、特産野菜、まな板、包丁

②児童：筆記用具

(5) 学習過程

時	学習活動 予想される児童の反応（○）	形態	指導上の留意点（・） （◎評価と方法）
導入 5分	1 前時までに調べた登米市の野菜についてウェブマッピングや野菜の実物で確認する。 2 本時のめあてを確認する。	一斉	・道の駅見学時の写真を提示し、駅長の話などから知った特産野菜についてウェブマッピングで振り返ることで、地域の農業について更に興味や関心を高め、意欲的な探究活動ができるようにする。 [視点1] ・地域で採れた野菜をその場で切って提示し、児童に直接接触させることで、手触りや香り、新鮮さから、地域の農業についての知識習得と意欲的な探究活動ができるようにする。
◎ 登米市の特産野菜について、調べることを決めよう。			
	3 登米市の特産野菜のランキングクイズを行う。 (1) 特産野菜の収穫量ランキング（県、全国でのランキング）をグループで予想する。 ・きゅうり 宮城県1位 全国12位 ・キャベツ 宮城県1位 全国30位 ・にら 宮城県1位 全国31位 ・なす 宮城県2位 全国74位	グループ	・宮城県36市町村、全国1700の市町村の対象のランキングであることを確認する。

<p>展開 35分</p>	<p>(2)全体で登米市の特産野菜の収穫量のランキングを確認する。 ○こんなに、たくさん育てているなんてびっくり。 ○登米市の野菜は、日本でもトップクラスで収穫されているんだ。 ○全国の人たちは登米市の野菜を知っているのかな。</p> <p>4 地域の野菜について、なぜこんなにも多く収穫できるのかを考える。 ○農家でたくさん野菜が採れるように作り方を工夫しているんじゃないかな。 ○ビニールハウスで育てたりしているのかな。 ○1年の間に、何回も栽培と収穫をしているんじゃないかな。 ○登米市は4つの野菜が育てやすい場所なのかな。</p> <p>5 今後の学習課題を設定する。 ○農家の野菜づくりの工夫を調べたい。 ○たくさん生産するためにどんな工夫をしているか調べたい。 ○農家にインタビューして、工夫を尋ねたい。 ○どうして「もっこりにら」や「ビーナス」など変わった名前が野菜についているのか調べたい。 ○全国ランキング1位は何県なのか調べたい。</p>	<p>一斉</p> <p>一斉</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なす、にら、キャベツ、きゅうりの順で発表し、全国収穫量がトップクラスであること児童に印象付ける。 ・自分たちの地域（南方町）にキャベツやにらが植えられていることに触れる。 ・特産野菜についての収穫量（県、全国でのランキング）を提示することで、「なぜ、こんなにも多くを収穫できるのか」を児童に問い、考えさせることで、地域の野菜の良さについてもっと調べたい思いが膨らむようにする。[視点2] ・分からないことや不思議に思ったことが学習課題につながることを説明し、自分の周りの児童と自由に話し合わせる。 ・学習課題が設定できない場合には、社会科「農家の仕事」の学習でいちご農家には、様々な仕事の工夫があったことを振り返らせる。 <p>◎登米市の農業について、道の駅の見学や特産野菜の収穫量ランキングの結果から、今後の学習課題を設定している。 【思考・判断・表現】 (行動観察・ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネット、人に聞くなど様々な情報収集の仕方があることを確認する。
<p>終末 5分</p>	<p>6 本時の学習を振り返り、次時の見通しを持たせる。 ○登米市の野菜の良さを調べて、たくさんの人に知らせてあげたい。 ○こんなに、登米市の野菜がたくさん収穫されていることが分かってびっくりした。</p>	<p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の課題に対する振り返りをワークシートに書かせる。 ・次時の学習内容を確認し、見通しを持たせる。

(6) 本時の評価

評価の観点	評価規準
思考・判断・表現	登米市の農業について、道の駅の見学や特産野菜の収穫量ランキングの結果から、学習課題を設定している。

(7) 板書計画

④ 登米市のとくさんやさいについて、調べることを決めよう。



地中海キャベツ

キャベツ



サイボーグ009
とめキュウリ

きゅうり

登米市のやさい



なす

ピーナス



にら

もっこりにら

ビニールさいばい？

何度もしゅうかく？

登米市はそだてやすい場所？